

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2772402307
法人名	株式会社 おだやか
事業所名	グループホーム おだやか村野
訪問調査日	平成 20 年 8 月 19 日
評価確定日	平成 20 年 9 月 8 日
評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

作成日平成20年8月22日

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2772402307
法人名	株式会社 おだやか
事業所名	グループホーム おだやか村野
所在地	大阪府枚方市村野本町18-17 (電話)072-805-0700

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年8月4日	評価確定日	平成20年9月8日

【情報提供票より】(20年8月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	20人	常勤	3人, 非常勤 17人, 常勤換算 14.4人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	4 階建ての	2階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	19,200 円
敷金	有(円)		○無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,800 円			

(4)利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 78 歳	最低	65 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	(医)松徳会 松谷病院 (医)谷口クリニック たかはま歯科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業主体は、大阪府下で3箇所のグループホームを運営する、(株)おだやかである。ホームは、平成16年4月、単独型鉄骨造り4階建てのマンションを改築して、2階部分に、2ユニットで開設された。京阪交野線「村野」駅から徒歩3分、ホームの周辺は古い家並みと田畑の風景があり、自然の緑と静かで、穏やかな環境が在る。ホームの理念は「人間の尊厳を大切にしたいケアをいたします」「その人らしい生活を尊重し暮らしていただきます」「地域や家族の方と共存していくグループホームを目指します」として、これらの理念の具体化の為に、管理者・全職員が一体と成った真摯な取り組みの実践の姿が見られる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①自己評価では、出来ている事、これから取り組みたい事を追求して改善に結びつける。②家族との情報交流を一層深める、の2点が課題とされた。①は評価結果資料を職員に配布して各種会議で話し合い方向性を決めていく。②は面会時、管理者・ユニット長が対応して、詳細な情報・交流がされ、おだやか通信・担当職員の小手紙での交流もある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対しては、サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、職員全員で自己評価に取り組まれていた。また、自己評価や外部評価の実施する意義を理解し、評価を活かした具体的改善の実践が見られた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。毎月のホームの運営・サービス活動状況報告、利用者の各種行事実施内容や結果報告、事故報告、自己評価、外部評価結果の公表等々を議題としている。会議への参加者も、利用者代表、家族代表、地域自治会員、地域包括支援センター長、及び事業所の管理者・施設ホーム長等々の参加で、双方向的な会議が実施されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談窓口を設置して、管理者による、意見、苦情、不安への対応が成されている。また、家族の来所時には、利用者の日常生活・行事・健康状態等が家族に詳細に報告され、介護記録表の閲覧も可能である。また、「意見箱」や「面会カード」も玄関に設置されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域で開催される祭りへの参加、歌のボランティアの訪問、同じマンションの住民の方々や、近隣の老人や子供達との交流がある。近くで畑仕事をしている方々とも顔馴染みになり、果物を頂いたり、お礼にお弁当を食べて頂く交流もある。今後は、地域包括支援センターの応援を得て、民生委員などの参加・協力で、地域との交流を深める取り組みが企画検討されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は「人間の尊厳を大切にケアをいたします」「その人らしい生活を尊重し暮らしていただきます」「地域や家族の方と共存していくグループホームを目指します」としている。これは、新しい地域密着型サービスの理念に沿った、事業所独自の理念と言える。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホームの見え易い処に掲示している。毎月1回の職員会議や勉強会等で日頃から全職員が理念の共有を図り、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で開催される祭りへの参加や、歌のボランティアの訪問など、近隣の老人や子供達の交流がある。また、近くで畑仕事をしている方々とも顔馴染みになり、果物を頂いたり、お礼にお弁当を食べていただく交流もある。	○	今後は、地域包括支援センターの応援を得て、民生委員の参加・協力で、より一層の地域との交流を深め、ホームの理念である、地域の誰もが気軽に立ち寄れる場、井戸端会議のできる場を目指す取り組みが期待される。
mo					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価に対しては、サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、職員全員で自己評価に取り組んでいた。また、自己評価や外部評価の実施する意義を理解し、評価を活かした具体的改善の実践が見られ、運営推進会議や家族へも報告している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、平成18年5月に設置された。2ヶ月に1回開催されている。会議では、毎月のホームの活動内容や結果報告、行事予定、事故報告、外部評価結果の公表等もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	随時、町の担当職員とはコミュニケーションを密にして頻繁に情報交換がされている。1ヶ月に1回、2名の介護相談員の派遣を受け入れ、市の担当者の指導や連携によりサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月初めに、職員からの「お手紙」での健康状態の報告や日常の暮らし、サービス内容が報告されている。また、「おだやか通信」が定期的に発行され、各種の行事予定・経過報告等が写真付きで郵送されている。また、金銭出納帳は毎月の請求書と共にコピーが送付されて、残高確認がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置して、管理者による、意見、苦情、不安への対応が成されている。また、家族の来所時には利用者の日常生活、行事、健康状態等が家族に詳細に報告され、介護記録表の閲覧も可能である。玄関に「意見箱」や「面会カード」も設置して、家族等の意見を受け入れている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同一フロアに2ユニットなので、出勤時には全職員が各ユニットの利用者にご挨拶をする事が恒例となっている。また、週1回は、2ユニット合同でレクリエーションを行っており、利用者は職員全員の顔を覚えており、職員との馴染みの関係づくりも築かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に「勉強会」(必要な場合は随時、定期的には年4回程度)を実施し、市の講習会や研修会等にも職員の参加を促がしている。また、職員の休息場所を確保してストレス軽減や健康管理に配慮された取り組みがある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームとの交流は成されているが、地域の同業者との交流は不十分なので、目下、地域包括支援センターが中心となって、同業者との交流を促進する計画が進められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は今まで生活されてきた環境をよく理解して、環境が変わることへの不安を解消すべく、利用者が十分納得する説明を行ない、必ず利用者本人や家族がホームを見学して、利用者と家族が安心納得した上でサービスの利用する関係作りが成されている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自立支援を念頭に、利用者の訴えを傾聴し、人生の先輩として人格を尊重した言葉使いや態度で接し、利用者一人ひとりの個性を理解し、尊重して、温かな家庭的な安らぎと寛ぎの中で、利用者から学んだり、支え合う良き関係が築かれている。		
Ⅲその人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シートの一部導入(入居者情報・生活歴の記録シート)により、利用者の在宅でのサービス利用経過を的確に把握して、利用者の生活の自己決定や意思表示を大切にしたり、心身や暮らしの情報の把握が実践されている。		
n					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個人別介護記録、入居者情報、受診・往診記録表、業務日誌、面談等々により、各種の個別ケア情報を収集し、これらを基にチームカンファレンスを1ヶ月毎(最低2ヶ月に1回)に行ない、状況に合わせて、担当者会議を開催して、利用者本位の介護計画を作成している。計画書の家族の署名捺印と書類交付もされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書の見直しは、3ヶ月に1回実施されている。また、変化が生じた場合は随時見直しを行ない、計画の変更を実施している。見直した計画書には、家族の署名捺印と書類交付もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所では、介護保険サービスの「医療連携体制加算」「24時間健康管理・医療活用の強化」と自主サービスの「外出の支援」「移送サービス」が実施されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を尊重して、かかりつけ医の継続が成されている。事業所の協力医療機関等の医療を受ける場合は、本人や家族等の同意と納得を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に関する指針」の文書で説明して、同意書を受領すると共に関係者で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけや対応に注意して、利用者の誇りやプライドを損ねないよう心がけているが、まだ職員に周知されていない。個人情報の漏洩防止にも努めており、プライバシーの保護の徹底を図っている。	○	利用者に対する「言葉づかい」「態度」等については、さらに、会議等で職員に周知徹底を計ることが期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いやその日の体調に合わせて、無理のない生活リズムを作るよう努力している。入浴時間や食事・就眠時間については利用者の希望に添えるよう対応をしているが、まだ十分とは言えない。	○	「利用者のペース」「利用者の自己決定」が最優先であることを全職員が確認・自覚して、会議等で徹底する取り組みが図られている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は外部委託であり、献立の特徴は「おいしい健康管理提案書」による、低カロリー・高タンパクのヘルシー指向のシルバーメニューが採用されている。献立にもとずき、職員が全食を利用者の好みを直に聞きながら手作りしている。盛り付け、配膳、食器洗い、後片付け等出来る事は利用者と職員が共に協力している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、希望があれば利用者の希望に沿った入浴が可能である。また、入浴出来ない場合は、シャワー浴、足浴、清拭での対応がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみごととは、散歩、ゲーム、書道、からおけ、祭り、近隣の催事への参加等々多くが実施されているが、毎日の生活の中でそれぞれの役割を持って、張り合いや喜びが持てる支援が工夫されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の勤務上、利用者の希望に添えない場合があるが、出来る限り散歩や個別外出をする機会を作る工夫がされている。車での利用者の希望する時間や場所に出かけて、一人ひとりの希望に沿った外出支援が実施されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者及び全ての職員は、鍵をかけることの弊害は理解している。玄関には利用者の安全のため施錠をしているが、利用者が戸外への出入りの希望には即応体制をとり、見守りを重視して、出来る限りの開放感が得られる様に心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同じマンションの住民にも声をかけて、消防署の指導による避難訓練は年2回実施されている。また、消防署からの意見や助言は、その都度会議で職員に徹底が図られている。また、防火管理者も設置されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養摂取と水分摂取量は介護記録、水分量・排泄チェック表で把握されている。また、個人別に食べる量や水分量は毎日把握されており、一人ひとりの状態に応じた支援がされている。また、栄養バランスについては栄養士による週間献立表にカロリー量も表示されて、栄養バランスが計られている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間はマンション2階部分を改築した2ユニットの構造の為に、共用空間の利用に厳しさはあるが、食卓・ソファの配置や季節感を出す様な貼り絵を壁に飾り、共用空間の工夫がされている。また、2ユニットが自由に行き来できるので、利用者開放感を与えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や家族の写真が置かれて、清潔に保たれている。家族には、利用者の居室は「自由にお使いください」と説明しており、家族の訪問時も安心して利用者が共に居室での団欒が可能である。ベントにはナースコールも設置してある。		